

# 海に陸に空に 沖縄に残された傷跡

## 沖縄県民

### 4人に1人が死亡

1944(昭和19)年春、アメリカ軍がフイリピンまで攻めてきました。それと同時に沖縄では戦争への準備が始まりました。

さらに戦争で邪魔者となる子供・老人たちは九州の鹿児島などに疎開しました。

1945年3月23日の未明、民家や山野に焼夷弾が投下され戦争が始まりました。周りの山々は真っ赤な焰と白い煙に包まれ、燃え続けていました。投下されるものは焼夷弾から爆弾に変わ



艦砲射撃 10隻の戦艦を含む巡洋艦、駆逐艦、砲艦など219隻の米艦隊が沖縄を包囲、一斉に艦砲射撃を開始した。航空機による爆撃とともに文字通り「鉄の暴風」となって砲弾を降らせた=1945年3月

### 【沖縄戦 年表】 ～1945年～

- 3/23 大空襲
- 3/25 慶良間上陸
- 3/31 那覇沖の神山島(チービシ)上陸
- 4/1 嘉手納上陸
- 4/2 嘉手納飛行場占領、宜野湾へ進出
- 4/5 沖縄島を南北に分断、北部に軍政府を置く
- 4/6 嘉手納・宜野湾で激戦
- 4/8 首里城下の司令部に艦砲射撃始まる
- 4/9 本部半島に上陸、津堅島占領
- 4/11 那覇北方の日本軍陣地に米軍殺到
- 4/16 伊江島上陸
- 4/22 浦添占領
- 4/26 米軍前線突破
- 4/27 日本軍首里方面の米軍を総攻撃
- 5/17 石嶺占領
- 5/21 首里要塞占領
- 5/24 日本軍飛行場を逆襲
- 5/28 首里城下の司令部、南部へ撤退、首里占領
- 5/31 那覇突入
- 6/6 那覇飛行場占領
- 6/11 米軍バクナー中将、降伏勧告  
牛島満司令官、これを拒否
- 6/23 牛島司令官、最後の一人まで戦えと指示して摩文仁で自決、組織的戦闘終結
- 6/24 米軍掃討戦を開始
- 7/2 米軍沖縄戦の終了を宣言

この沖縄戦には幼児やお年寄りといった邪魔者扱いをされ、逃げ場をなくした人たちがいました。

当時流行っていた映画では、日本軍の弾は百発百中で当たり、日本軍の強さを強調しましたが、実際は、最終的に沖縄の人の4人に1人が亡くなった最悪の事態となったのです。

沖縄戦を体験した人は若い人たちに伝えたいという気持ちもあります。思い出す度に、語りたくない人もいます。

それからさらに酷い惨劇が生じるようになりました。妻や子供など自分で死ぬことのできない者の命を先に絶ち、後を追うようにして次々と男たちも死んでいきました。



集団自決(強制集団死) 米軍のキャプションには「米第32連隊の布陣地帯から逃れようとして弾丸に倒れた非戦闘員たち(6月21日)」とあるが、写真は集団自決(強制集団死)

## 愛する者は 自分で殺す

座間味の村長の発声で「天皇陛下万歳」が三唱され、それに続いて手榴弾の炸裂音が響きました。しかし、その手榴弾の多くは不発に終わ

り、今までより激しさを増していきました。この人々が米軍に見つかってしまおうと男の人は戦車でひかれ、女の人は暴行され、数多くの人が強制的に命を奪われていくという噂も急激に広まりました。

その結果、人々の恐怖と絶望が限界に達し、「集団自決」が始まりました。座間味の村長の発声で「天皇陛下万歳」が三唱され、それに続いて手榴弾の炸裂音が響きました。しかし、その手榴弾の多くは不発に終わ

だ集団自決という知識のない12歳以下の子供たちでした。これは、軍人によって死に追い込まれた「強制集団死」にほかならないということになります。

「参考文庫」解放出版社「沖縄戦をどう教えるか」、岩波書店「沖縄『集団自決』慶良間諸島で何が起きたか」

「参考文庫」学研教育出版「わたしたちの戦争体験 沖縄」、解放出版社「沖縄戦をどう教えるか」、らくだ出版「沖縄は戦場だった」

## 1944年8月22日 対馬丸暗闇の海に沈没

対馬丸は、1944年8月21日、疎開児童や教員、一般の疎開者など178名を乗せ、長崎に向けて那覇港を出発しました。しかし翌22日夜、鹿児島県・悪石島の北西10キロ地点を航行中、米軍潜水艦ボフィン号の魚雷攻撃を受けて沈没し、乗員・乗客178人中、141人(学童77人)もの人が犠牲になりました。実際に対馬丸の沈没を体験した人の話では、救命具をつけたまま甲板に寝ていると「ドカーン」と大きな爆発音で目を覚ましたそうです。辺りをうかがうと暗闇の中で泣き叫ぶ声と助けを求める声で騒然としていました。その時、「船が沈むから、全員海へ飛び込め」という大声が聞こえました。対馬丸はしばらくして「ガラガラ」という大音響と共に、船尾のほうから暗闇の海中へ沈んでいきました。

## 「琉球」から「沖縄」へ

11世紀以前の琉球は、まだ周辺の国からもはっきりと認識されていませんでした。そして、12世紀に入ると中国では北方民族の圧迫によって首都を南部に移して「南宋」となりましたが、中国南部に首都があることから、琉球は中継地としての役割も果たすようになりました。

15世紀の初めには尚氏が琉球王国を建て、日本や中国、朝鮮、さらに遠く東南アジアも船を出して盛んに貿易を行っていました。

江戸時代になると琉球は薩摩藩に服属しましたが、中国にも従って貿易を許されました。

明治時代になると、政府は琉球藩を置いて日本への帰属を主張しましたが、中国は認めませんでした。しかし、琉球漂流民の殺害事件をきっかけにして日本の琉球領有が認められました。政府は、1879年になると反対する琉球の人々をおさえて、琉球藩、琉球王国を廃止し、沖縄県を設置しました。これを「琉球処分」といいます。



首里城2000年に世界遺産に登録された「琉球王国のグスク(城)および関連遺産群」の一つ